

経管栄養の要介護高齢者における 口蓋の剥離上皮膜の形成過程

松村 康平

松村デンタルクリニック
(主指導教員：小笠原 正 教授)

松本歯科大学大学院歯学独立研究科博士（歯学）学位申請論文

The formation process of membranous substances on the palates of
elderly persons requiring nursing care with tube feeding

KOHEI MATSUMURA

Matsumura Dental Clinic
(Chief Academic Advisor : Professor Tadashi Ogasawara)

The thesis submitted to the Graduate School of Oral Medicine,
Matsumoto Dental University, for the degree Ph.D. (in Dentistry)

【目的】

剥離上皮膜を形成しやすい要介護高齢者に対する口腔ケアの間隔を検討するために口蓋の剥離上皮膜の形成過程と口腔ケアに要した時間を検討した。

【対象および方法】

経管栄養の要介護高齢者のうち口腔乾燥の臨床診断基準（柿木）の1度以上の17名を調査対象者とした。入院記録より年齢，疾患，栄養摂取状況，寝たきり度を確認し，Japan Coma Scale，意思疎通の有無，発語の可否，介助歯磨きと粘膜ケアの頻度を担当看護師から聴取した。歯科医師あるいは歯科衛生士による専門的口腔ケア（歯面清掃と粘膜ケア）を実施してから3時間後，6時間後，12時間後，24時間後，48時間後に口蓋の附着物を観察すると共に一部を採取し，「なし」，「粘液物」，「粘稠物」，「膜状物」の4種類に分類した。なお調査期間中は，病院職員による口腔ケ

アを中止した。通法に従い附着物のヘマトキシリンエオジン染色（HE染色）標本を作製し，上皮成分が認められたものを剥離上皮膜と診断した。さらに介助歯磨きと口蓋の附着物の除去を含めた粘膜ケアを行い，ケア時間を測定した。

【結果および考察】

附着物の種類毎における上皮成分面積率の中央値は，膜状物が84.2%，粘稠物が45%，粘液物が0%で，すべての組み合わせで有意差が認められ，膜状物が最も上皮成分の面積率が高く，粘液物が最も低かった。粘膜ケアを行ってから3時間後は，52.9%に粘液物を認め，6時間後は35.3%が粘稠物，11.8%に膜状物を認めた。12時間後に膜状物は23.5%，24時間後に47.1%，48時間後に52.9%の者に認めた。膜状物は粘液物の形成時間より有意に長いことが認められた。膜状物を除去することを含めた口腔ケアの時間は粘液物よりも有意に長くかかることが認められた。口腔乾燥傾

向のある経管栄養の要介護高齢者の粘膜ケアは、
6～12時間の間で1回行うことが妥当であると判
断できた。